

第13回

田空わがまち自慢

元気！ならぎの



(写真上段左から) 岩下秀子さん・水野美智子さん・森一江さん
 飛田静美さん、西村レイ子さん
 (写真下段左から) 工藤エミ子さん・加藤チズ子さん・飛田モモエさん
 市原ヨシ子さん・杉本秀子さん

ASO 田園空間博物館では、阿蘇市内各地の後世に残すべき地域の宝(名所旧跡、おススメスポットなど)を「サテライト」として登録し、地域の方々と一緒に守り伝えていく活動を行っています。これまで、「ASO 田園空間博物館通信」では、サテライトやサテライトを守り伝えている方々の取り組みをご紹介しており、今回は阿蘇市波野地区で精力的な活動を行っている「元気！ならぎの」の女性の方々に、女性の立場からの地域振興についてお話を伺いました。

●あなたの地域の「サテライト」募集中!

皆さまの地域にある歴史や由緒ある場所、残しておきたい大切なもの、伝統、文化などをサテライトに登録しませんか? お問い合わせは、A S O 田園空間博物事務局 (☎ 35-5077) までお願いします。

現在、榎木野地区では32戸、85名が生活しています。阿蘇市に存在するにも関わらず、地区の方曰く、「五岳は見えない、温泉もない、川もない、最近ではガソリンスタンドもなくなり、ないものを挙げると限りがない」とのこと。年々高齢化も進み、地域に活力がなくなっていたそうです。このような一昔前の状況を、笑顔溢れる右の写真から想像できるでしょうか?

この地区の元気を取り戻すきっかけとなったのが45年ぶりに復活させた地区に古くから伝わる「盆踊り」でした。平成18年、当時の区長と会計が発起人となり、住民たちに「盆踊りを復活させよう」と声をかけ始めました。地区の行事を活性化するためには、男性の力はもちろん、女性の協力も重要な要素の一つです。復活にあたり大変なことが増えるかもしれないというリスクを抱えた榎木野地区の女性たちの返答はというと、「やってみよう!」だったそうです。もちろん、中には「本当にできるのかな?」という声もありました。それでも反対する人は少なく、「とりあえずやってみよう」と動き始めました。何十年前前に途絶えていた盆踊り。かつて踊りを教えてくれていた方もいなくなっていたため、子ども頃の記憶を辿りながら必死に思い出し、みんなで何度も練習しました。その結果、地区の中で大きな絆が生まれたのです。

盆踊りが復活してからは、A S O 田園空間博物館と協力し、「榎木野をたくさんの方に知ってほしい、遊びに来てほしい。」と地区のみんなで『元気ならぎの!』を結成し、一致団



地域散策イベントの様子



「乳の木」の下で紙芝居を披露



おもてなし研修の様子

結してさまざまな活動に取り組んでいます。榎木野地区に存在する、枝がお乳のように垂れた珍しいイチヨウ「乳の木」の周辺を散策するイベントでは住民たちがガイドとなり、昼食では地元ならではの食材を使った料理を振る舞います。また、地区の80代以上の女性たちで「甘酒会」を結成し、イベントの際は毎回参加者に甘酒を振る舞います。現在は年に3回ほど収穫体験や味噌づくり体験を開催し、阿蘇市外からお客さまをお迎えしています。「こんな、何にもない所にわざわざ来てもらうとやけん、おもてなしぐらいは一生懸命せんと申し訳ない」という皆さんの気持ちが観光客にも伝わり、独自のおもてなしが観光客の間でも大人気となっています。

また、観光客のみならず、この女性方のファンは阿蘇市内にも存在します。彼女たちのおもてなしの心(技)を学ぼうと、昨年は榎木野地区に阿蘇市内で同じような活動をしている女性たちが30名近く集まり、榎木野のおもてなしについて学び、意見交換を行いました。

これだけの活動が続けられる秘訣は?と尋ねると「やっぱりみんなが仲いいことやろうね」「みんな家族のごとしとるけんね。集まらんと寂しいとよ」と女性たち全員が口を揃えて言います。年齢も関係なく、あだ名で呼び合う様子は本当に地区全体が兄弟、姉妹のようです。

相変わらず高齢化は続いています。この女性たちの笑顔があれば、これからも明るい「元気ならぎの!」を築いていけることでしょう。今後の活躍にも乞うご期待です!

阿蘇一の宮門前町商店街・お座敷商店街

日曜の午後、桜の木の下で。

まだ少し肌寒い4月3日、阿蘇神社参道につながる阿蘇一の宮門前町商店街で、毎年恒例のイベント「お座敷商店街」が開かれました。当日はあいにくの天候で曇は敷かれませんでした。空を覆うほどの満開の桜の下で、多くの観光客や地元住民らが花見を楽しみました。今や阿蘇市有数の観光スポットとなった門前町商店街。かつては「消えゆく商店街の灯」と言われたこのまちに、再び“賑い”という光を灯したのは、1本の桜でした。



2 1



3



4



1 終日、歩行者天国となった商店街。まちなみは満開の桜に染められた
2 阿蘇神社参道に咲く桜。夜間ライトアップも行われた
3 席を予約し花見を楽しむ地元市民。「県外の友人にもこの商店街を紹介しています。桜も満開で最高の気分」と満足した様子
4 昔懐かしの水鉄砲を楽しむ子どもたち



5 熊本市から訪れたというご家族。「あか牛くんに会えてうれしい」と顔がほころぶ 6 阿蘇神社での挙式を前に商店街を歩く新郎新婦。「多くの人にお祝いの言葉をかけていただき良い思い出になった」と2人 7 阿蘇に合宿に訪れ、ひとときの観光を楽しむ県内の高校生



1本の桜から始まった、商店街の再挑戦。

『お座敷商店街』は、門前町商店街の店主の2代目などの若者世代でつくる『若きやもん会(岩永芳幸会長)』が、「訪れた人にゆっくり花見を楽しんでもらいたい」と、5年ほど前から始めたものです。風情ある街並みにズラリと畳を敷き詰める斬新な企画は、開始当初から注目を集め、これを目当てに訪れる観光客も少なくありません。

そんな商店街も、十数年前には相次ぐ大型店の進出などにより、客足が衰え地元新聞紙では「消えゆく商店街の灯」と揶揄されたことも。そのことで危機感を覚えた店主が立ち上がり、まず、始めたのが桜の植樹でした。「四季折々の季節感を楽しめる商店街にしたい」と仲町繁栄会の宮本数吉会長を中心に、当時それぞれの店主や住民に同意を得て、次々に植樹が行われました。

賑いを取り戻した光景の前に「これだけ賑いを取り戻すことは)予想だにできなかった。全国から来ていただきありがたい」と店主の杉本蘇助さん。「自分が生きている間は町の活性化に取り組みたい」と夢は尽きません。

「それぞれの店主全員が一丸となって、同じ方向を向いて頑張っていきたい」と宮本会長。満開の桜とともに、生き生きとした表情で観光客をもてなす店主の笑顔がまち中に咲き乱れていました。



8 店主の杉本蘇助さん(左)と若きやもん会の岩永芳幸さん。「まちの活性化が生きがい」(杉本さん)「皆さんにゆっくり花見を楽しんでもらいたい」(岩永さん) 9 「今の気持ち(状況)を次の世代、そして孫の世代に受け継いでほしい」と宮本数吉さん。普段は、商店街に沸く湧水を使ったコーヒーをいれ、観光客とのふれあいを楽しむ(写真10)